

平成 23 年 1 月 24 日

加西市長 中 川 暢 三 様

加西市総合計画審議会

会長 牧 瀬 稔

第 5 次加西市総合計画の策定について（答申）

平成 22 年 10 月 20 日付諮問第 3 号をもって諮問のありました第 5 次加西市総合計画(案)について、慎重に審議した結果、下記の通り答申します。

記

1. 「加西の良さ」の共通理念探しが必要です。加西の良さとは何か、加西の魅力とは何か、住民が一言で言えるようになるまで議論を積み上げることが必要です。
2. 加西市に住み続ける大切な要因は、基本的な生活土台が安定していることです。現実生活に即した部分を充実させ、まずは現在居住している人々が転出しないということから人口減少対策に取り組むことが必要です。自然の中で遊び、地元食材を食べることができるこの加西市で生活し、子育てをすることに意義を感じる住民が増えるようなまちづくりを進めてください。
3. 加西市民一人一人が支え合い、助け合う社会生活を営むために、住民・企業・行政の協力によるまちづくりが求められます。そのためには地域住民が夢を持てる方向性を出すことが重要ですが、財政状況を鑑み、客観的基準で内容を区分することも必要です。地域の活力は経済力だけでは量れません。地域の強みを寄せ合い、つなぎ、求心力を高める取り組みを推進してください。
4. 加西市の人口は 30 年後には 3 万人を切り、高齢化率が 50%近くになると予測されていますが、市の活性化を図るためには、人口減少速度を緩やかに保たなければなりません。そして、なぜ若者が加西市に定住しないのか詳しく調査する必要があります。
5. 人口減少は改革の契機とも捉えることができます。ムダを無くしてコンパクトにすることで、市政の目が住民一人一人に届くこととなります。また、元気な住民がいつまでも活躍できるまちづくりをすること、あらゆる場面で高齢者の力を活かせる仕組みを作ることは、美しい加西、やさしい加西、ムダの無い加西にもつながると考えます。

6. 市民アンケート調査における「加西市の好きなところ、誇れるところ」で、70%の人が「自然環境がよい」と答えています。加西市の大きなポイントはこの点であり、これをどう活かすかに尽きると思います。また、人口減少と高齢化が全国的に避けられない中で人口構造に対応したまちづくりを行い、外部依存や社会状況の変化を待つことなく、内発的、内在的な力をどう活かすか、高齢者を福祉対象だけに留めず、いかにまちづくりに貢献していただくかの視点が重要です。
  
7. 加西市内に賦存する生態系サービスの定量的な価値分析が必要です。加西市にもたらされている太陽エネルギー、風力エネルギー、地中熱エネルギーのどれ程を地域生活エネルギーとして活用しようとしているのか。バイオマス資源を中心とする下部構造の産業化が明日の加西を元気にする源ではないでしょうか。グリーン成長なくしては加西の諸々の課題は解決しません。下部構造の産業化による加西の環境と経済の有機的統合（グリーン産業とグリーン雇用の創出）を図ることが、「将来から今を創造する」ことであり、元気があって、穏やかで、住んでよかったと思える「誇れるまち加西」に導くことにつながります。
  
8. 潜在する地域の才能を掘り起こし、新たな地域創造につなげていく必要があります。日々の住民の生活に人々を引き付ける地域資源は隠れています。外からの評価ではなく、自分たちで観光資源を再発見しようという機運を芽生えさせることが重要です。